

申請者（ふりがな）	田中 凜（たなか りん）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 8 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会 第 51 回大会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	田中 凜・江森 爽太郎・七森 真央・坂田 敦・熊野 宏昭
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	Beliefs About Rituals Inventory 日本語版の作成と信頼性・妥当性の検討
発表・活動・開催の概要と成果（学会発表の場合、抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）	
—概要— 【目的】 強迫症（Obsessive-Compulsive Disorder：以下、OCD）とは、強迫観念と、それに対応して生じる、強迫行為によって特徴づけられる疾患であり、うつ病との併存が多いとされている（American Psychiatric Association, 2013）。OCD に対する有効な心理療法の一つに、メタ認知療法（Metacognitive Therapy：以下、MCT）がある（Atmaca, 2022）。認知スタイルは MCT において病理過程の中心に据えられており、認知スタイルの歪みは、思考についての誤った信念であるメタ認知的信念によって制御される（Wells, 2009；熊野他監訳, 2012）。したがって、MCT では症状に影響する要因としてメタ認知的信念に着目している。OCD におけるメタ認知的信念は強迫観念に関わるものと強迫行為に関わるものが存在する。強迫観念に関わるメタ認知的信念として思考と侵入思考に関する信念（以下、混同信念）がある。強迫行為に関わるメタ認知的信念として、儀式に関する信念がある。 OCD に対する介入において、混同信念と儀式に関する信念はそれぞれ認知システムへの機能が異なる可能性があり、2 つのメタ認知的信念の両方を測定・介入する必要があると考えられる。混同信念を測定する日本語版の尺度は存在しているものの、儀式に関する信念の日本語版尺度は存在していない。そこで、本研究では、儀式に関する信念を測る尺度である Beliefs About Rituals Inventory（以下、BARI；McNicol & Wells, 2012）の日本語版の作成を目的とする。 【方法】 対象者：強迫症傾向のある大学生および大学院生 121 名（男性 62 名、女性 57 名、その他 2 名、平均年齢 20.00±1.62 歳）を分析対象とした。 調査材料：(a) 自己記入式 Yale-Brown 強迫観念・強迫行為尺度日本語版（浜垣他, 1999：Y-BOCS 日本語版）：強迫行為と強迫観念の程度を測定する尺度である。(b) Beliefs About Rituals Inventory 日本語版：BARI（McNicol & Wells, 2012）をもとに本研究で作成した、儀式に関する信念を測定する尺度である。(c) 不適応的な対処行動に関するメタ認知的信念尺度（藤島他, 2020：MBCS）：不適応的な対処行動に関するメタ認知的信念を測定する尺度である。「対処の制御不能性」の項目のみを使用し	

た。(d) 曖昧さへの態度尺度 (西村, 2007): 曖昧な状況での態度を多方面から測定する尺度である。「不安」の項目のみを使用した。(e) Patient Health Questionnaire-9 日本語版 (村松, 2014: PHQ-9): うつ症状の程度を測定する尺度である。

倫理的配慮: 早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理委員会」の承認を得て行われた。

【結果・考察】

作成した BARI 日本語版は Melchior et al. (2021) と同様の 1 因子構造であり, 概ね十分な信頼性と妥当性を持つ尺度であることが示された。

本研究の限界点として, 健常な大学生および大学院生からデータを収集した結果, 多くの項目で床効果が認められたことが挙げられる。このような結果となった理由として, 強迫症傾向のある健常な大学生および大学院生にとって儀式行為に該当する症状自体はあったとしても, その程度が臨床群ほどの症状の重さではなかったことが考えられる。したがって, 今後は臨床群を対象にした上で再度検討を行う必要がある。また, Melchior et al. (2021) では, OCD 群と自閉スペクトラム症群の BARI の平均得点に有意な差が見られていなかったため, 今後 BARI 日本語版尺度を検討する際には, 自閉スペクトラム症傾向を持つ回答者の弁別が必要であると考ええる。

—成果—

BARI 日本語版の作成により日本人を対象として儀式に関する信念を測定することができるようになり, 今後は本邦においてメタ認知療法の観点から強迫症の維持・悪化プロセスを検討する際に複数のメタ認知的信念を考慮した研究を実施することが可能であると考えられる。